

電流差動継電器成績書

P. _____

納入先 _____

検査期日 年 月 日

工事番号 _____

形 式	IBR-1T1	定 格 電 流	A	定 格 周 波 数	Hz
準 拠 規 格	JEC-174	調 整 電 流	A	動 作 表 示 器	DC A
整 定 範 囲	10~30%	製 造 番 号		台 数	台

試験項目・試験結果

試 験 項 目	試 験 記 録	試 験 結 果									
構 造 検 査	外観・構造・表示事項及び塗装										
絶 縁 抵 抗 試 験	回路一括 ~ 外箱間: 10MΩ以上 (規格値)										
耐 電 圧 試 験	回路一括 ~ 外箱間: 2.0kV 60Hz 1分間										
特 性 試 験	(注) 下記項目の試験を実施する。										
試 験 項 目	試 験 内 容	判 定 基 準									
(1) 零点確認	電流零における可動接点位置は、整定レバーを零点側へ可動させたとき、零点目盛画線の外側1m/m以内(目測による)で接点閉路すること。	異常なきこと									
(2) 平衡試験	整定レバーを最小整定(10%)目盛の1/4に整定しておき、動作及び抑制コイルに夫々調整電流値×120%を印加したとき誤動作なきこと。	異常なきこと									
(3) 最小動作値試験	片側コイル(端子10~9又は8~7)のみに電流を加えたときの動作値を各整定について測定する。 (I: 調整電流を示す)	レバー3における公称動作値の±10%以内									
<table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th>整 定</th> <th>公称動作値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レバー1</td> <td>$\sqrt{0.21 \cdot I} (0.458 \cdot I) A$</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>$\sqrt{0.44 \cdot I} (0.663 \cdot I) A$</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>$\sqrt{0.69 \cdot I} (0.831 \cdot I) A$</td> </tr> </tbody> </table>			整 定	公称動作値	レバー1	$\sqrt{0.21 \cdot I} (0.458 \cdot I) A$	2	$\sqrt{0.44 \cdot I} (0.663 \cdot I) A$	3	$\sqrt{0.69 \cdot I} (0.831 \cdot I) A$	
整 定	公称動作値										
レバー1	$\sqrt{0.21 \cdot I} (0.458 \cdot I) A$										
2	$\sqrt{0.44 \cdot I} (0.663 \cdot I) A$										
3	$\sqrt{0.69 \cdot I} (0.831 \cdot I) A$										
(4) 動作値試験	片側のコイルに調整電流(抑制電流)を印加しておき残りコイルに動作値電流を加えて各整定における動作値を測定する。試験条件及び測定点を下表に示す。	公称動作差電流の±20%以内									
<table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th>動作電流端子</th> <th>抑制電流端子</th> <th>整 定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>端子10~9</td> <td>端子8~7</td> <td>L=1 L=2 L=3</td> </tr> <tr> <td>端子8~7</td> <td>端子10~9</td> <td>L=1 L=2 L=3</td> </tr> </tbody> </table>			動作電流端子	抑制電流端子	整 定	端子10~9	端子8~7	L=1 L=2 L=3	端子8~7	端子10~9	L=1 L=2 L=3
動作電流端子	抑制電流端子	整 定									
端子10~9	端子8~7	L=1 L=2 L=3									
端子8~7	端子10~9	L=1 L=2 L=3									

備 考

承認	作成